

麥門冬 紫蘇子 瓜蒌仁 枇杷葉 甘草右等 砂糖 一兩

痔疾には、脂深き烟草の刻たるを丸め、肛門にはさみ居れば、忽痛を去、

烟草の黒脂やく竅を塞通ざる時は、味噌汁鹽湯奇妙也、和國の人は常に是を飲故脂の患なし、

烟脂衣類につきたるには、瓜子仁を碎て洗ば即去、又味噌汁の熱にて洗ても忽散ず、又昆布を嚙汁をとりて揉あらうも又良といふ、

〔養生法〕烟草

烟草は其質を委しく論ずれば、害のみにして良とすべき所なし、されど今世界中追々盛に成て、貴賤に限らず、好嗜し馴たるもの、其害なきが如くなれど、馴ざるものは眼前に眩眩し、咳嗽を發し、口舌を荒し、又胃の氣を弱らする事著し、烟草に種々有、喫ぎたばこととて、粉末にして喫ぐもの有、喫み烟草とて、口に入れて直ちに其葉を喫るものあり、又煙管もて只其煙を吸ふもの有、則我國の刻煙草、西洋人の卷煙草など此類也、西洋人の煙草をふくを見るに、皆只煙りを口に入れて是を吹出すのみ、我國人の習はしは、氣息に深く引て腹の中に入、これを吐くに鼻より出す、されば西洋人にくらぶれば、其害尤多しといへども、年來のならばしにて、幸に其毒にあたる事なし、煙草は一、二吹して、つれづれを慰め、勞れを忘る、など、其煙の口に入れて一種の佳味を覺え、精神を鼓舞せしむるが故也、吸ひ入ると吸ひ入ざるにはよらず、されど弱き葉は吸ひこまざれば功なきが如くなれば、強き葉を口中のみにて吹去る事とすべし、今俄に禁ずれば、又これが爲に害あり、年若き人は、つとめて吞ならはざる中に禁すべし、

豊城○本書補注 云、煙草はもとより害多く益なき事、皆人のしる所にして、既に昔制禁せられ

しとかきけど、今は大やけにして制するものなし、されど旅行する人、道にいこふ程煙草一ふくに遠足の勞を忘れ、或は閑居のつれづれを慰め、深窓に書見する人など、是をもて鬱を發し、